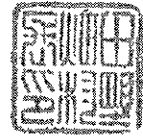


田 地 整 第108号
平成20年10月20日

国土交通省
道路局長 金 井 道 夫 様

田野畑村長 上 机 莞 治



今後の道路行政についての意見・提案について

秋冷の候、貴職におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃から道路整備の推進につきまして、特段のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました今後の道路行政についての意見・提案につきまして、別紙のとおり意見及び提案いたしますのでよろしくお願いいたします。

1. 地方においては、道路整備に対するニーズは依然として高く、国と地方が連携して高速道路から市町村道までバランスのとれた道路ネットワークを形成していかなければならない。
道路のネットワークとは、その路線がすべて繋がることによって、初めて効用が果たされるものであり、部分の改良では本来のネットワークとは言えないことから、高規格幹線道路及びそれを補完する地域高規格道路の中抜け区間については、評価を高くするなど国が責任を持って整備すべきである。
2. 地方道路整備臨時交付金及び地方道路整備臨時貸付金（無利子貸付金）制度は、地方の道路整備にとって誠に有効な制度あることから、同制度の継続と更なる拡充を図っていただきたい。
3. 費用対効果は、評価指標の設定が重要であり、費用対効果の指標の高いところだけでなく、地域間の格差を解消するために高次医療施設への搬送及び地震・津波等災害時における避難道路や緊急輸送道路は、防災面から国民の人命に直結することなど、緊急性にも配慮した評価指標としていただきたい。

○現状

岩手県、とりわけ県北沿岸地域は、道路整備が遅れたことに伴い、人口が減少するとともに、産業の振興が立ち遅れている。

これまで、いつ整備が実施されるか住民は待ち望んでいたが、政府において、道路特定財源を平成 21 年度から一般財源化することとした基本方針が閣議決定されたことに伴い、益々道路整備が遅れるのではないかと心配される。

村中央部を南北に縦断している国道 45 号は、本村の発展と交流促進に重要な役割を担っているが、宮古・久慈間の地域高規格道路三陸北縦貫道路の整備の遅れが目立つ中、特に交通の難所となっている中野バイパスと尾肝要道路のうち、中野バイパス真木沢工区は一部供用が開始されるなど整備が進んでいるが、尾肝要道路は平成 18 年 3 月に整備区間に指定され、ようやく本年度から路線測量及び地質調査を実施予定となっている。

県道は、一般県道田野畑岩泉線のうち、現在整備中の広域農道と一部区間が連結していないため、広域農道との一体的な整備が必要であり、主要地方道岩泉平井賀普代線は沿岸部の地形が急峻のため、落石等が頻発しており、北山崎などへのアクセスや水産物などの流通に支障をきたしており、早急な整備が求められている。

村道は、幹線道路を整備して三十数年経過するなど、通常の維持補修での対応が限界となっており、幹線道路及び生活道路の整備が地域住民より強く求められている。

道路整備が進まないことにより、定住人口が減少していることから、地域資源を活用した、交流人口の拡大を図っている。

○課題

1. 緊急時における高次医療施設や高等教育機関の整っている市部へのアクセスの改善
2. 日本一の海岸美と評価されている陸中海岸国立公園の「北山崎」を擁する本村は、観光を核とした産業の振興や体験観光を推進して地域振興を図っているが、「北山崎」を含めた主要観光地までのアクセス道路の整備
3. 少子化による小中学校の統合や高校再編に伴う、安全な通学路の確保
4. 2033 年までの発生確率が 99%とされる宮城県沖地震が発生した場合、岩手県の被害想定調査によると、本県の被害は死者 1,000 人、建物全壊 4,600 棟に上ることが想定されているが、沿岸部を縦走する国道 45 号は各地で分断され、迂回路の整備も進んでおらず、重症患者の移送や災害復旧資材の搬入が困難を極めることは明白であり、地震や津波に強い三陸沿岸部の高規格道路のネットワーク化の実現

田野畑村は、岩手県北部沿岸に位置し、豊かな自然資源に恵まれ、[人]将来を担う人づくりを進める、[環境]自然と共生する村づくりを進める、[安心]安全で安心な村づくりを進める、[交流]産業が元気な村づくりを進めることの四つを、新しい村づくりを推進するための重点施策に掲げ、「人と自然が輝き 心ふれあう創造の村・たのはた」を基本目標としている。

「自然と共生し、安全で快適な生活が営まれる村」・「郷土に誇りを持ち、社会に貢献する人材をはぐくむ村」・資源を生かした産業が盛んで、働きがいのある村」・「村内外の交流により、人々が協力しあう村」・「魅力ある情報を受信し、心ふれあう村」を村づくりの将来像として掲げ、目標を達成するため各領域で施策を展開している。

現在、約100万人の観光客の入込みがあるが、高速道路等が全線開通することにより、200万人の観光客の入込みが可能であり、そのことにより、大きな地域振興が図れるものである。

国道45号、主要地方道岩泉平井賀普代線、広域農道の縦軸の整備と、それに横軸で連結する一般県道田野畑岩泉線、幹線村道などの整備を進め、村土の縦軸と横軸の効率的な道路網の整備を図り、物流や観光、村民生活の利便性の向上、さらには救急医療や防災への迅速な対応を可能にする。

国道45号の歩道未整備区間解消やバリアフリー化、景観に配慮した道路づくりを進め、通学路における利用者の安全歩行空間の確保を図り、村民生活の利便性及び生活環境の向上を図るものである。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

岩手県田野畑村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域自立と活力の強化	・地域高規格道路の整備(三陸北縦貫道路) ・現道拡幅による隘路の解消(県道田野畑岩泉線、村道和野平井賀線) ・災害復旧事業の早期完成(主要地方道岩泉平井賀普代線)	・北山崎等主要観光地へのアクセスの向上による観光と産業振興の相乗効果 ・主要物流拠点へのアクセス時間の短縮 ・減っていた観光船の乗客数の回復と地元利用者の走行時間の短縮及び水産物の生産コストの削減効果	
・安全と安心の確保	・地域高規格道路の整備(三陸北縦貫道路) ・現道拡幅による隘路の解消(県道田野畑岩泉線、村道和野平井賀線) ・災害復旧事業の早期完成(主要地方道岩泉平井賀普代線)	・高次医療施設への搬送時間の大幅な短縮により、救命率の増加 ・津波等災害時における避難路及び患者の移送、支援物資の搬入路として迅速な利用が可能 ・安全な通行が確保されることに伴い、生活上の安心感の増大などの精神的効果	
・環境の保全と豊かな生活環境の創造	・幅の広い歩道の整備と既設歩道の段差の解消及び勾配の改善(国道 45 号、県道田野畑岩泉線、村道田野畑平井賀線)	・歩道利用者の安全で安心な歩行空間が確保され利便性が向上	